

せせらぎねっとわーく（白川町）

農山村

地域づくり・イベント

取組の背景

平成2年10月、折からの地域活性化ブームにのり、まちづくり・人材育成を白川町でも行うため、「クオーレ美濃白川塾」（主催：白川町）を開設した。

白川塾は、地元企業や公的機関から推薦を受けた40名が1年間にわたり様々な内容の講義（主に外部講師）を受け、ふるさと白川を再発見し、まちづくりのリーダーとして将来にわたり活躍してもらうことを目的に、平成2年を第1期とし3期まで開催したものである。

白川塾終了後、白川塾で学んだことを活かして今後の白川町のまちづくりに役立てたいとして、修了生による会を結成した（平成4年）。

第1期に集まったメンバーは、元々が各職場や地域においてリーダー的な存在であったが、さらにもう1歩視野を広げて白川町全体を見渡すことができる実践的な活動を行おうと会を結成したものである。

取組の概要

白川町が町民の1%のリーダーを養成することを目的に開設した「クオーレ美濃白川塾」の修了生が中心となって「せせらぎねっとわーく」を設立した。

「せせらぎねっとわーく」とは、町内を流れる5つの川のせせらぎのように、それぞれの考えや意見が1つになって力を合わせれば大きな何かができるという願いから命名したものである。

会員は約20名、年代は40～60歳代となっており、まさに地域の中核として活動する年代となっている。

活動は、定期会合等はないものの、毎年春に行う「水戸野しだれ桜」の桜祭りの企画運営をメインに、各種イベントへの参加を行っている。

せせらぎねっとわーくの事務局は町経営管理課まちづくり推進グループが担っている。



水戸野しだれ桜

取組の内容

せせらぎねっとわーく設立当初は、ふるさときゃらばん公演や中国雑技団の公演を企画し、運営。

毎年11月3日に開催される「ふるさとまつり」では在住外国人（結婚して白川町に住んでいる人）の方と連携し、餃子やミャンマー料理のブースを出すなど、積極的にイベントにも参加している。

その他、白川町内の他のまちづくり団体に協力する形で、各種イベントや会合に参画している（白川町には地区毎に活動団体があり、それぞれが主催するイベントが数多くある。団体単独での運営が難しいときは、お互い協力しあいイベントに参加＝お手伝いしている）。

せせらぎねっとわーくが中心となって企画運営しているイベントに「水戸野しだれ桜」の桜祭りがあり、平成15年から開催している。

水戸野しだれ桜は、樹齢400年を超す岐阜県の天然記念物であり、せせらぎねっとわーくのメンバーの家代々の所有である。毎年春になると立派な桜を多くの人が見物に訪れるようになり、この桜を活用したイベント（地域おこし）を企画した。

毎年、桜の咲く時期にライトアップを行い、期間中バザーやミニイベントを開催している。メンバーは、会場準備を始め、宣伝広報、駐車場整理などを行うなど活躍しているが、その甲斐もあって、今では約5,000人が集まる白川町を代表する春の定例イベントに成長している。

ただ、イベントは多くの人が集まれば集まるほどメンバーの奮闘だけでは足らなくなり、今

後も継続するには他の団体や町の協力を得てイベントを実施する必要がある。

そのほかにも、白川町のまちづくりを担う団体として、白川町第四次総合計画策定時のまちづくり研究会委員としても参画するなど、各方面において活躍している。

成果

最近は定例会合も少なくなるなど、会の活動自体はやや低調になっている。

しかし、平成 15 年から始めた桜祭りが町民の支持を得て、大きなイベントに育っており、白川町の歴史と自然を活かしたまちづくりを担うために開設された「白川塾」の修了生にふさわしい取組として町民に認められている。

成果の要因

白川塾から始まった活動であるために、ふるさと白川のためになる活動、地域づくりにつながる活動を行おうという意識が強い。白川町が好きで、自分たちで何かをやりたいという思いが、塾修了後 15 年近くが経っても活動を継続させている源となっている。

白川町は谷筋の 4 町村が合併して誕生した町であり、合併後 50 年経った現在でも旧町村毎の結びつきが強い。逆に言えば、旧町村単位で物事を考えがちになるが、白川塾ひいてはせせらぎねっとわーくの活動により、地域や職場のリーダーとなる人材が「白川町」全体を考えるきっかけとなったことはその後のまちづくりに大きな成果をもたらしている。

今後の課題

○活動の活性化

→現在、会の活動はやや低調であり、桜祭りを中心としたイベントの開催・参加とともに、当初の目的である「まちづくり」のための提言や会合などを行っていくことが重要である。

○新規メンバーの加入

→会の発足後 15 年近くが経過したが、新規メンバーの加入が無く活動が停滞気味と

なっている。桜祭りの成功もあり新規加入を促す好機でもある。しかし、町民自身がせせらぎネットワークのことを塾OBの集まりであると認識しており、その点をどのように克服していくかが課題である。

この人にお話をうかがいました！

せせらぎねっとわーく 事務局（白川町経営管理課まちづくり推進グループ） 安江章さん

調査日：平成 18 年 11 月 24 日（金）

調査者：中濃振興局 山田